

新年

新年、あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、あたらしい年が幸せな年であるように、期待されながら元旦を迎えられたことと存じます。

昨年は何といても、G7サミットが伊勢志摩の地で行われ、かつ大成功であったことが最も大きなニュースであったと思います。また、鳥羽市では配偶者プログラムがミキモト真珠島で開催されました。私たちの住む所が世界に誇れる景観、食材、文化などを備えている素晴らしい地域であることが証明されたわけであり、その住民として自信を深めることのできたイベントでありました。

鳥羽市におきましては昨年、消防の南鳥羽出張所が完成しました。火事や災害に備えるとともに、救急車の到着時間を大幅に短縮できましたので、南鳥羽地域の皆様に安心していただけるようになったと考えております。また、定期船では新船しおさいが就航しました。双胴アルミ船の数少ない欠点の一つである、ピッチングと呼ばれる前後の揺れを抑えるための工夫を、新たに考案し装着した新鋭船です。そして年明けには念願の神島小中学校が竣工します。安全な高台で子どもたちの楽しそうな声が間もなく聴けそうです。

さて、懸案の人口減対策ですが、昨年4月より移住・定住係を設置して、減り続ける鳥羽市の人口を何とかしようと職員も頑張っております。12月8日現在、13組31人が鳥羽へ移住してくれました。日本中から東京へ東京へと草木がなびくように人口が移動していましたが、最近では東京からあふれて地方へ向かう流れも出来つつあるようです。担当職員は今やっと東京から鳥羽への細かい流れができてきたと感じているようです。近い将来、社会減を大幅に減らしたいと職員は燃えています。そうなれば移住してきた方に子どもが生まれ、自然減の数も減っていくことが期待できます。観光、漁業の振興、子育て支援とともに、今後の鳥羽市の進む道が見えてきたように思います。

本年が市民の皆様にとりまして、幸多き一年となりますようお祈りし、年頭のご挨拶といたします。

鳥羽市長

木田 久主一

謹賀

新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、夢あふれる希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃は、市議会の活動に対し、ご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

年頭に当たり、鳥羽市議会を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

去年は、伊勢志摩サミットの開催により、世界各国から伊勢志摩地域に注目が集まり、様々な情報が世界各国へと発信がされたところでもあります。また、伊勢志摩国立公園指定七十周年を迎え、これまでで最も伊勢志摩地域が注目を浴びた年でもありました。今後は、益々増えてくるとされる外国人観光客の対応など、「ポストサミット」としての、更なる観光客の誘客に向けた施策の展開が求められています。

現在、鳥羽市では急激な人口減少と少子高齢化の流れの中、国の地方創生の長期ビジョンに基づいた「鳥羽市まち・ひと・しごと総合戦略」に沿って、「移住・定住」「働く場所の創出」「結婚・子育て」など、基本目標に掲げた施策を展開しています。しかし、どんどん進むであろう人口減少を食い止めることは容易ではないと思います。そんな中において一つ一つの課題に対して確実な施策をもって地道に解決していくことで、全ての人々が「住んでいて良かった」「住み続けたい」「住んでみたい」と実感できる鳥羽市になればと考えています。

市議会では、市民に開かれた議会を目指し議会改革を進める中で、去年は「広報広聴委員会」を立ち上げました。これまでの議会報告会の形式からスタイルを一新し、「TOBA ミライトーク」として各地域へ出向き、これまで参加の少なかった若者層や子育て世代の方々などを中心に意見を交わす取り組みを始めたところでもあります。

今後におきましても更に議会改革を進めるとともに、今まで以上に地域や市民に密着した議会として役割と責任を果たしていく所存であります。市民の皆様には、今後一層のご協力を申し上げますとともに、新年が皆様にとって実りある一年でありますことを祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

鳥羽市議会議長

浜口 一利